

## 『佐竹音次郎の育児事業と高知人脈』

### I. 佐竹音次郎と幸徳秋水

1. 明治初期の中村
2. 幸徳秋水の関係者
  - ① 幸徳秋水 (1871～1911)
  - ② 幸徳千代子 (1875～1960)
  - ③ 幸徳多治 (1840～1910)
  - ④ 安岡友衛 (未詳)
  - ⑤ 安岡雄吉 (1854～1920)
  - ⑥ 桑原戒平 (1844～未詳)
3. 佐竹音次郎と初期社会主義者との交わり

### II. 佐竹音次郎と高知の医師

1. 弘田長 (1859～1928) と沖本幸子 (1872～1923)
  - ① 婦人共立育児会と鎌倉小児保育園
2. 済生学舎の同窓生との交わり

### III. 佐竹音次郎の海外支部と高知との繋がり

1. 高知慈善協会の北村浩 (1865～1942) との提携
2. 旅順支部と國澤新兵衛 (1864～1953)
3. 台北支部と佐田家年 (1870～1924)

### IV. 鎌倉から中村への郷愁

1. 横田金馬 (1867～1944) との最後の交わり
2. 辞世の句に込めた思い

## 佐竹音次郎・幸徳秋水関係年譜

西暦(年)	元号	音次郎年齢	佐竹音次郎の主な出来事	秋水年齢	幸徳秋水の主な出来事	参考事項
1864	元治元年	1	5月10日、母佐雄の四男として土佐国幡多郡下田村竹島にて出生。生家は農業を営む。			禁門の変 第一次長州征伐
1871	明治4年	7	近郷の中村町の紺屋、従兄佐竹友七の養子となり、佐竹姓となる。	1	11月5日篤明(通称嘉平次)多治の三男として、中村町中之丁961に生まれる。業種商・酒造業。	
1872	明治5年	8	養家先から美馬先生の寺子屋に通う。	2	父死亡。	
1874	明治7年	10	横田金馬と寺子屋で出会う。	3		佐賀の乱
1876	明治9年	12	養親離婚、養母が去る。生家に戻り、下田村立尋常小学校に通う。	6	10月28日、母の従兄、熊本県令、安岡良亮が神風連の乱で遭難。12月、中村小学校下等第8級に入学。	熊本神風連の乱、県令安岡良亮死亡。
1878	明治11年	14	父が尋常小学校を退学させ、生家の農業を専念させる。夜間木戸明の塾に通学し漢学を学ぶ。	8	12月15日、中村小学校下等第3級卒業。	
1879	明治12年	15		9	木戸明(鶴州)の修明舎に入る。考経の素読を受ける。	
1880	明治13年	16	村の天満宮に学問ができるように願掛けする。	10	2月24日、中村小学校下等科卒業。6月23日、上等6級、上等5級卒業。	林有造ら拳兵を策し捕わる。西郷隆盛自刃。
1881	明治14年	17	父の許しが出て、村の小学校の助手となる。	11	中村中学校に入学。	板垣退助らが自由党を結成
1883	明治16年	19	高知県小学校初等科中等科教員検定試験合格、正教員となる。	13		高知県令伊集院兼善が県庁・教育関係者のうちで、自由党の縁故者全員を解雇している。
1884	明治17年	20	隣村の八束村の家に婿入りし、一子も受ける。	14		
1885	明治18年	21	向学を志望し、協議離婚する。小学校教員を辞して、高知の海南学校入学し学び、小学校高等科教員検定試験に合格する。	15	初等中学科第3年後期卒業。炭成会を結成。	
1886	明治19年	22	軍人を志望して上京するが、年齢制限により入学が許可されない。郷党の豊島郡長桑原戒平の推挙により東京府巢鴨尋常小学校校長に就任する。	16	高知の木戸明の「遊焉義塾」に入る。	
1887	明治20年	23	東京府尋常小学校教員検定試験合格。	17	林有造の書生となる。	
1890	明治23年	26	巢鴨尋常小学校校長を退任して、明治法律専門学校に入学するが、6月に退学、7月から医学予備校済生学舎	20		
1891	明治24年	27	医術開業前期試験合格。房州鏡が浦(現館山市)にて休養と、後期試験に向けての準備をする。	21	中江(兆民)家に寄宿。国民英学会に通う。	濃尾大地震(死者7,273人)
1892	明治25年	28		22	国民英学会正科卒業。	黒岩涙香によって「万朝報」発刊。
1893	明治26年	29	済生学舎を卒業し、医籍登録を完了。江の島に遊びに行く。	23	「自由新聞」入社。	
1894	明治27年	30	2月父宮村源左衛門死亡。 6月山梨県立病院退職。 7月神奈川県腰越に腰越医院開業。	24		日清戦争勃発
1895	明治28年	31	安岡友衛の紹介により、9月10日鍋島出身の沖本忠三郎の次女くま(21歳)と結婚。	25	3月「広島新聞」入社。5月「中央新聞」入社。	
1896	明治29年	32	7月20日腰越医院に小児保育院併設 9月21日長女里出生	26	福島県三春辺の旧久留米藩士の娘、朝子と結婚。まもなく離婚。	明治三陸地震津波(死者・行方不明者2万1,959人)
1897	明治30年	33		27	4月「団団珍聞」社員となる。	3月、足尾銅山鉱毒被害民800余名上京。
1898	明治31年	34	1月4日次女伸出生	28	2月「万朝報」入社。	
1899	明治32年	35	9月8日三女花出生 11月生産部を新設し、歯磨粉の「保育散」製造販売を開	29	7月、国学者、師岡正胤の娘千代子と結婚。	
1901	明治34年	37	津田仙と出会う	31	12月、田中正造の直訴状起草。	中江兆民死去。
1902	明治35年	38	6月16日鎌倉美以教会牧師山鹿旗之進により受洗 7月東京女囚携帯乳児保育会が設立。乳児を委託される 10月内村鑑三の紹介で理想団晩餐会で講演。 『結核征伐』販売を開始 四女愛子出生	32	2月『長広舌』刊行。3月『兆民先生』刊行。	

西暦(年)	元号	音次郎 年齢	佐竹音次郎の主な出来事	秋水 年齢	幸徳秋水の主な出来事	参考事項
1903	明治36年	39	秋月子爵・曾根子爵らの揮毫による慈善書画会開催。 300円の収入	33	7月『社会主義神髓』刊行。10月『万朝報』を退社。「平民社」を創設。	
1904	明治37年	40		34	「平民新聞」に非戦論を展開する。9月『社会民主党建設者ラサール』刊行。	日露戦争勃発
1905	明治38年	41	3月9日四女愛(4歳)永眠 3月11日医業を廃止して保育事業に専念 9月1日腰越医院を沖本幸子に譲渡。	35	筆禍事件で禁錮5ヶ月の刑をうけ巢鴨監獄に入獄。獄中でクロボトキンの『田園・製造所および工場』を読み、無政府主義に関心をいだく。10月『平民社』解散。11月14日、横浜から伊予丸で渡米する。サン・フランシスコ着。岡繁樹、ジョンソンに会う。12月、アメリカ社会党に入党。	
1906	明治39年	42	5月30日鎌倉町大町607番地に新園舎竣工(総建築費3,600円)移転。園児40名。「鎌倉小児保育園」と改称。賛助員及び基本金募集の趣旨書『保育の園』作成 長男献太郎出生。	36	4月18日、サン・フランシスコ大地震。6月5日、岡繁樹と同行、香港丸で帰国、23日朝横浜着。7月4日、妻千代子と帰省。中村町、入野村で演説会を開く。9月、東京着。	
1907	明治40年	43		37	1月『平民新聞』刊。4月『平民主義』刊行。8月『革命奇談神愁鬼哭』刊行。12月『経済組織の未来』秘密出版。	足尾銅山暴動
1908	明治41年	44	ほとんど病床、園母くまが外部の活動を行う。	38	中村町で『麵麩の略取』翻訳。6月森近運平とともに演説会、赤旗事件おこる。	
1909	明治42年	45	三井慈善病院に入院する。	39	1月『麵麩の略取』刊行。発禁となる。3月1日妻千代子を協議離婚	
1910	明治43年	46	3月20日長男献太郎(5歳)永眠。 3月30日内務省より最初の奨励助成金として400円を受けける。 6月園母くま姿を隠す。 9月12日長女里・次女伸を含む女児5名献身を誓う。	40	小泉三申のすすめで『通俗日本戦国史』執筆。6月1日、湯河原で検挙。11月20日『基督抹殺論』脱稿。堺利彦に『基督抹殺論』の出版を依頼する。12月15日、全員に死刑求刑。	12月28日、幸徳秋水母多治中村町で病死。
1911	明治44年	47	4月園母帰園。 11月第1回育児事業協議会に出席、発言する。	41	1月18日、刑法第73条によって死刑判決。 1月24日、午前8時6分死刑執行。 1月25日、屍体を落合火葬場で荼毘に付す。 2月、『基督抹殺論』刊行。	
1912	大正元年	48	大連で慈善書画会開催(外地での最初の実施)			
1913	2年	49	旅順市外田家屯に旅順支部設立。京城支部設立。京城で第1回慈善書画会開催。			
1914	3年	50	台湾で慈善書画会開催。			
1915	4年	51	1月15日長女里子・鈴木栄治と結婚。 12月30日台北八甲庄に台北支部設立。			
1916	5年	52	3月旅順支部を旧ロシア海軍病院に移転する。			
1917	6年	53	3月10日台北支部に愛育幼稚園を開設。			
1918	7年	54	4月4日財団法人成立準備評議会結成。			シベリア出兵 米騒動
1920	9年	56	財団法人認可、「鎌倉保育園」と改称 音次郎初代理事に就任。寄附総額112,919円			
1921	10年	57	1月28日次女伸・井東昇と結婚。			
1923	12年	59	関東大震災、本園全壊、二児を失い、負傷者多数			関東大震災(死者・行方不明者10万5,385人) (1925年の調査では14万2,800人)
1924	13年	60	皇太子殿下御成婚記念賜金の下賜 震災復興国庫補助金30,000円下付 12月鎌倉本園園舎復興(総建築費45,000円)			
1926	昭和元年	62	恩賜財団慶福会より終身奨励金下付 財団法人の特別会計として「恩賜奨励連絡慰安基金」を設ける			
1931	6年	67	曾田嘉伊智第2代理事に就任			満州事変
1932	7年	68	大連市外老虎灘に大連支部設立			救護法実施 児童虐待防止法公布
1933	8年	69	鎌倉本園、救護法に基づく救護施設として認可 鎌倉本園、児童虐待防止法に基づく保護児収容施設として認可			
1936	11年	73	佐竹昇第3代理事に就任			
1938	13年	75	北京市外四区大井胡同に北京支部開設、7名の中国児童収容			
1940	15年	77	6月29日鎌倉保育園創立45年記念感謝会開催 8月16日午後7時35分永眠			

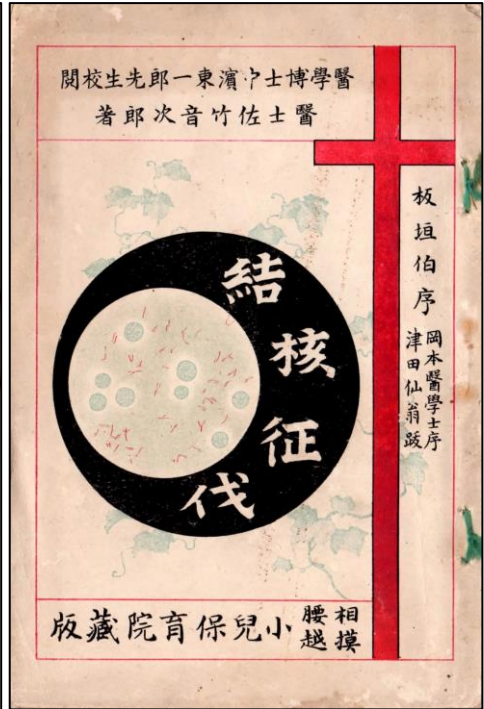
出典:「日誌 佐竹音次郎」筆者一部修正

出典:「幸徳秋水を顕彰する会」作成尾崎駿一

結核征伐 序文 板垣退助

仁の行ある人あり。君風  
孤思の鞠育を盡す。年  
命を授け受ける。孤  
永思を其家を受る。

古人稱す醫は仁の術と。而して  
世上徒に仁の術を言ふ。仁  
の心なき者。往々して之を  
我州の佐竹音次郎君の如  
き。冥ふ其の心と術を兼ぬ安



の仁人たるを天下後世に  
告ぐこと再び。  
明治三十三年 板垣刑部  
仲夏

君治と世をなすを身をも  
さす者歟。君頃一書を刊  
行せし。余も題を乞  
ふ。余亦君と同癖。今  
辭せしむ之を書し。君